

検査が必要？自覚がなくても、隠れ脳卒中の可能性も

脳卒中はある日突然倒れる病気というイメージが強いですが、実は前触れとなる症状を見逃しているケースもあります。その中の一つに、一過性脳虚血発作という病気があります。

■脳卒中と同じ症状が数分間だけ？一過性脳虚血発作

脳卒中の前兆症状には特徴的なこんなものがあります。

- ・片方の手足や顔半分、の麻痺やしびれ
- ・ろれつが回らない、言葉が出ない、他人の話を理解できない
- ・立てない、歩けない、ふらふらする
- ・見え方がおかしくなる、片方の目が見えない、2つに見える、視野が欠ける
- ・激しい頭痛
- ・意識が低下する

これらの自覚症状が数分から1時間ほどで消えてしまうことがあります。疲れているせいかと考えて一晩寝たらなんともなく、何でもなかったのだと考えて放置していると、数日から数週間後に脳卒中が起こるのです。

この一時的な症状を「一過性脳虚血発作」と言います。

■一過性脳虚血発作と脳卒中の違い

では、一過性脳虚血発作と脳卒中の違いは何でしょうか。脳卒中の中でも脳梗塞は、脳の血管に血栓が詰まってしまい、脳細胞に血液が行き渡らなくなって脳細胞が死んでしまうため、麻痺などの重い後遺症が残る病気です。

この血栓が小さく、詰まりが一時的で流れてしまう、あるいは溶けてしまって、再び脳細胞に血液が循環すると、症状は大事に至らずに消えてしまいます。これが一過性脳虚血発作です。

■一過性脳虚血発作は脳卒中の前触れ！

一過性脳虚血発作は症状が一時的なので、重要な症状ではないのでしょうか。これは NO です。症状は一時で消えてしまいましたが、血栓は残る、あるいは作られやすい状態は変わりません。

流された血栓が、さらに先のより細い動脈に詰まってしまって、今度こそ脳梗塞を引き起

こすこともあります。また、血栓が作られやすい状態を放置した結果、新たな血栓が脳動脈を詰まらせることもあります。

つまり、一過性脳虚血発作は脳卒中の中でも脳梗塞の「前触れ」「警告発作」と位置付けられている症状なのです。先ほど挙げた症状が一時的に消え去って放置した場合、3割ほどの人が数日から数週間後に脳梗塞を引き起こすことが分かっています。特に症状が消えてから48時間以内が危険であることも分かっています。

一過性脳虚血発作は自覚症状が一時的であるからと軽く見ず、すぐに専門医を受診することが大切です。脳卒中は早期治療が大切であることから、その前触れ、警告発作である一過性脳虚血発作は脳卒中の早期発見のために、とても重要な症状なのです。

■自分でチェック！FASTテストとは

早い受診が大切と言われても、一時的な症状が大きな病気につながることを予測するのはなかなか難しいことです。そこで自宅で自分でチェックする方法があります。「FASTテスト」と呼ばれる方法です。

FASTテスト

「F」顔（Face）の麻痺：口を広げて「イー」と言い、左右の口角が上がるか

「A」腕（Arm）の麻痺：手のひらを上にして肩の高さまで上げて目を閉じてそのまま。片腕が下がるか

「S」言葉（Speech）の障害：短い文章をはっきり発音してみる。

「T」すぐ受診（Time）：どれか1つでもできなければ即座に受診

■一過性脳虚血発作で受診したら行われる検査とは

一過性虚血発作を疑って受診した場合、行われる検査にはどんなものがあるのでしょうか。主な検査を挙げてみます。

・頭部MRIかCT

頭部MRIでは脳梗塞や一過性脳虚血発作の原因となる変化をとらえることができます。一過性脳虚血発作の場合は、脳梗塞の跡が残らないことが多いのですが、脳動脈の詰まりや無症候性脳梗塞など、異常所見が見つかることが多く、一過性脳虚血発作が脳梗塞の警告発作であることの証拠ともなります。

・頸部血管超音波検査

頸動脈の動脈硬化が一過性脳虚血発作の原因となることは多いので、頸動脈を超音波で調

べます。動脈硬化の有無、血管の狭くなっているところの有無や程度を調べることができます。

- ・心電図

心臓で血栓が作られる原因となる不整脈の有無を調べます。

- ・経胸壁心臓超音波検査と経食道心臓超音波検査

胸の上から（経胸壁）超音波を当てて、心臓の壁や弁の動き、心臓内の血栓の有無などを調べます。同じ内容をより詳しく調べるときは、胃カメラのようにして食道側から（経食道）調べることもあります。

■一時的な症状でも見逃さない！すぐに受診しましょう

繰り返しになりますが、一過性脳虚血発作は自覚症状こそ一時的ですが、軽く見て見逃してはいけません。数日から数週間後の脳卒中を予防する最後のチャンスです。迷わず専門医を受診し、脳卒中の早期発見と早期治療で恐ろしい病気と後遺症の危険を減らしましょう。